



JGAP=ユニバーサル農業

障がい者雇用をきっかけに見えてきた農業活性化のヒント



京丸園株式会社 代表取締役 鈴木厚志

京丸園株式会社

経営の流れ

昭和39年生まれ（農家の長男13代目）

昭和60年 就農

平成 7年 経営理念「笑顔創造」

新商品開発に着手

平成 9年 障がい者の受け入れ開始

平成16年 京丸園株式会社を設立

平成25年 JGAP認証220000014

平成29年 しずおか農林水産物認証第17154061号



組織構成

平成30年8月現在



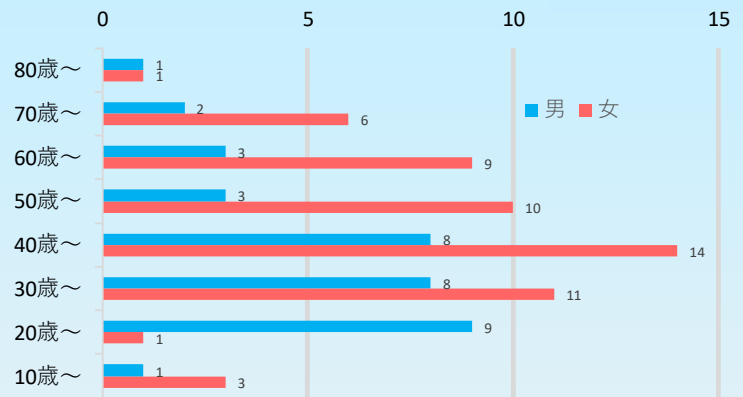
土耕部 田畑1.3ha

水耕部 栽培施設1.3ha

心耕部

総数 92名

(役員4名・社員10名・パート78名)



心耕部 (障がい者数)

25名

雇用

24名

研修

1名

知的

7名

身体

7名

精神

5名

発達

5名

平均年齢46.5歳

障害者雇用率 3
9%

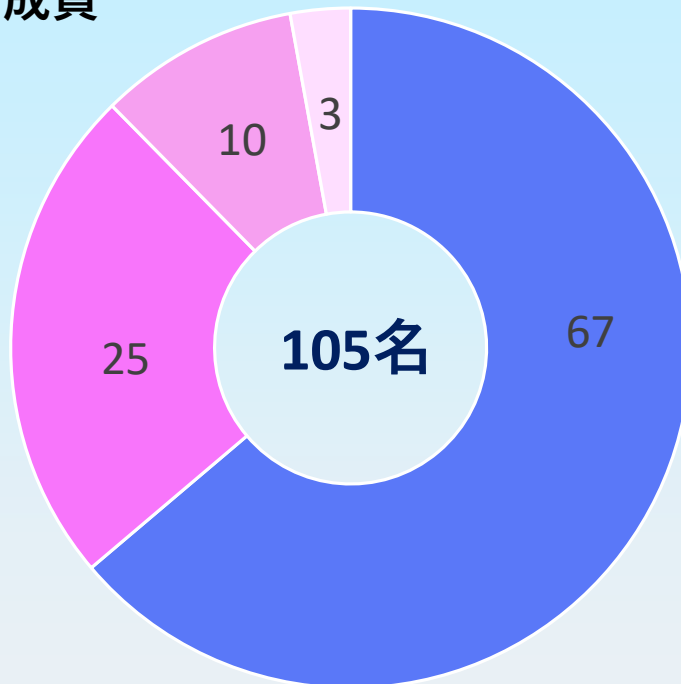
男女比 4 : 6

『笑顔創造』

構成員



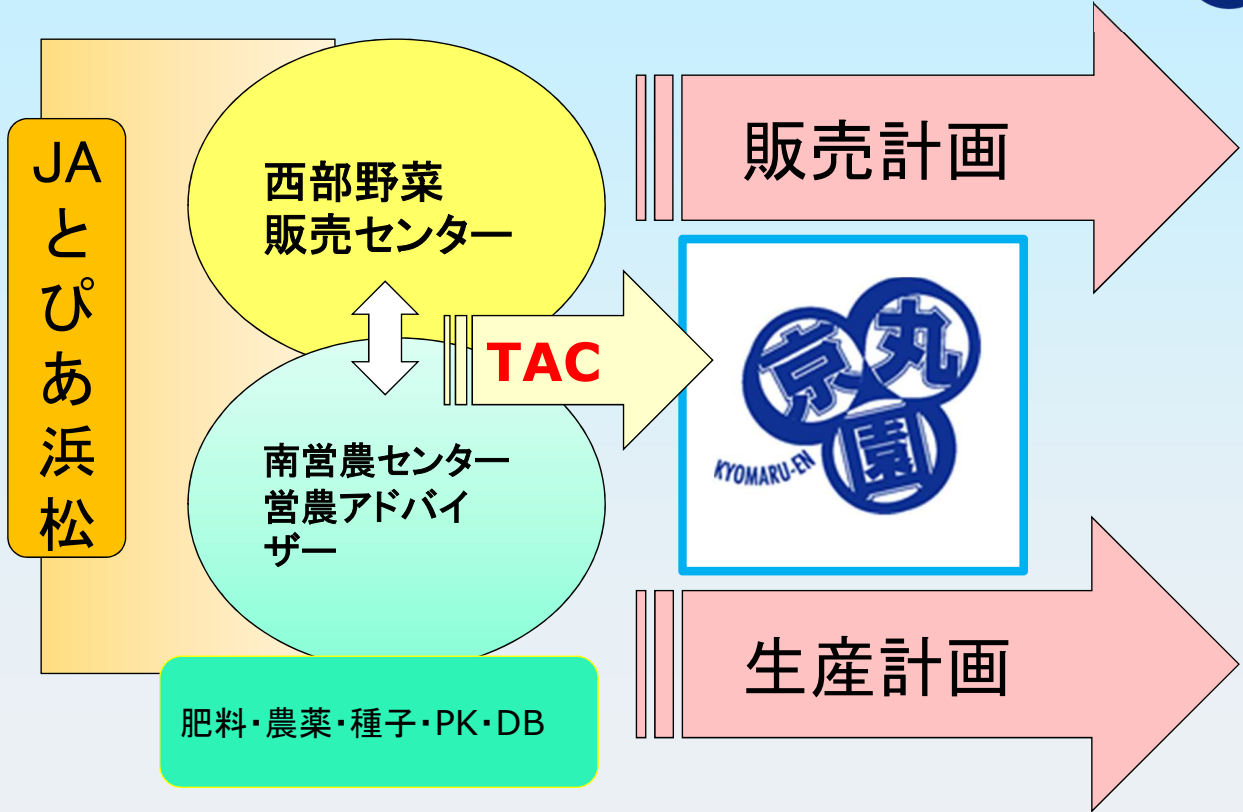
障がい者38名



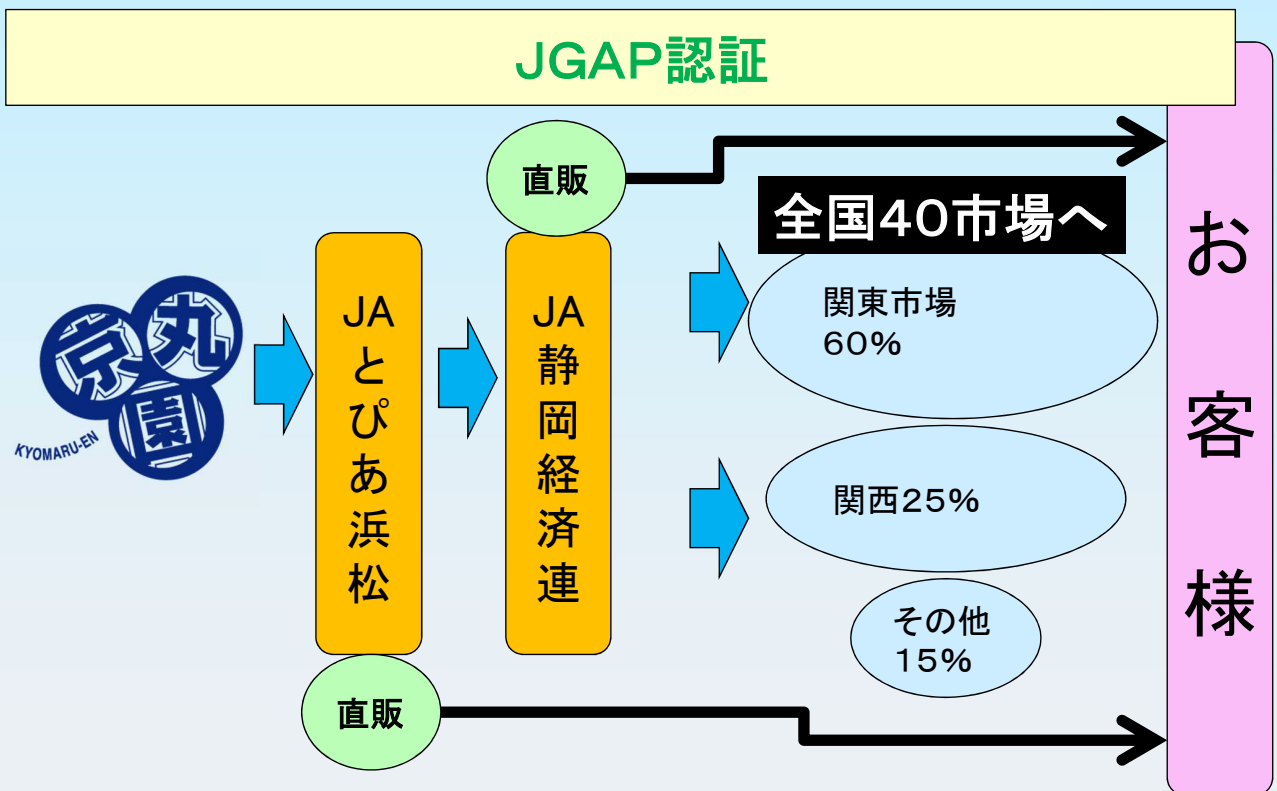
■ 水耕部 ■ 心耕部 ■ 特例子会社 ■ 福祉施設

販売体制

JAとぴあ浜松との連携



販売経路



姫ねぎ



ミニちんげん



京丸姫シリーズ



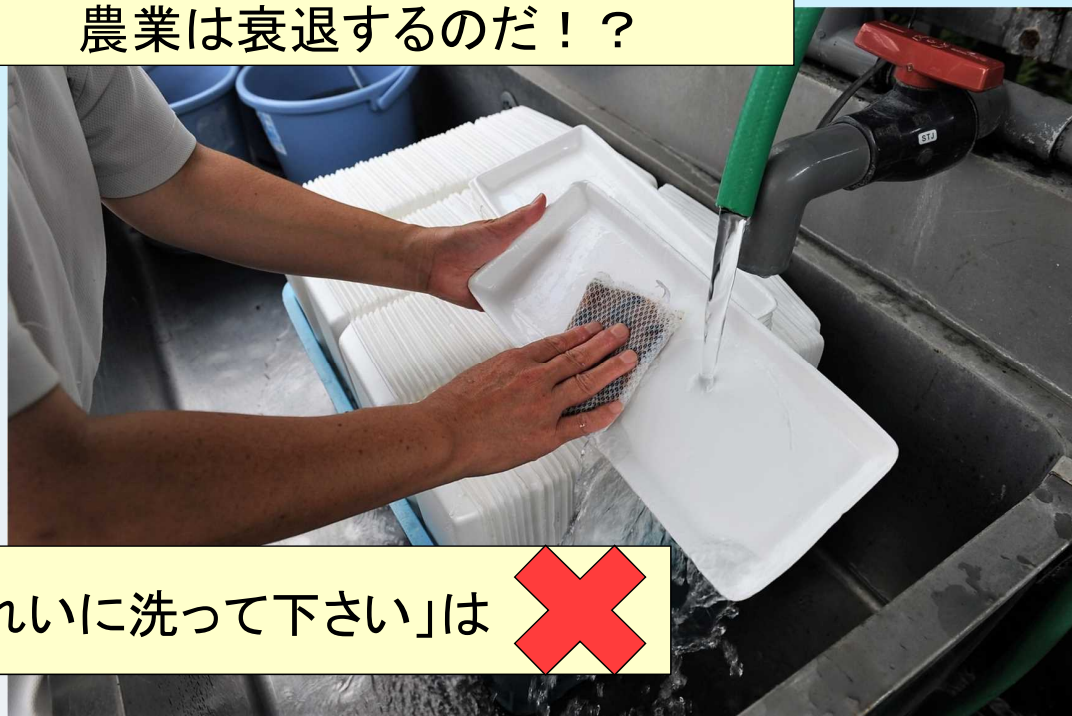
水耕栽培1.3ha 103名が働く



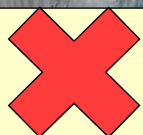
ユニバーサル農業の誕生



そんな指示を出しているから
農業は衰退するのだ! ?



「きれいに洗って下さい」は



福祉の視点で作業の標準化



誰が行っても「きれい」精度は同じ・正確な数量



ユニバーサルデザインによる機械を製作

福祉の視点で作業改善



手植えはできないが治具をつかえば！

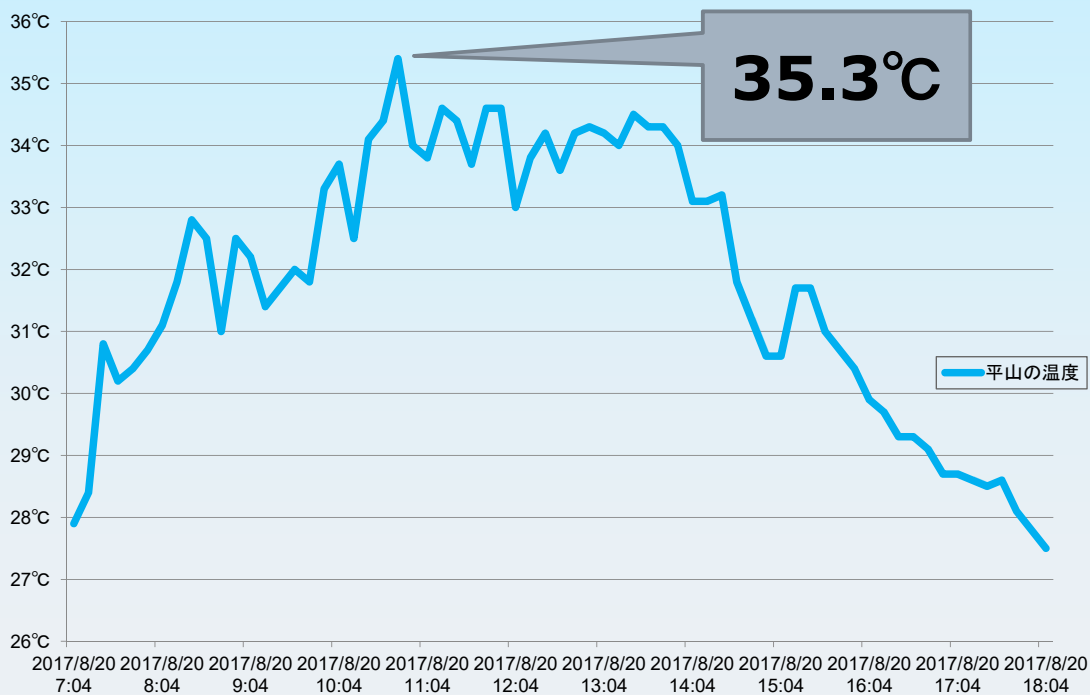


きれいに・はやく・低コストを実現！

農作業は危険！



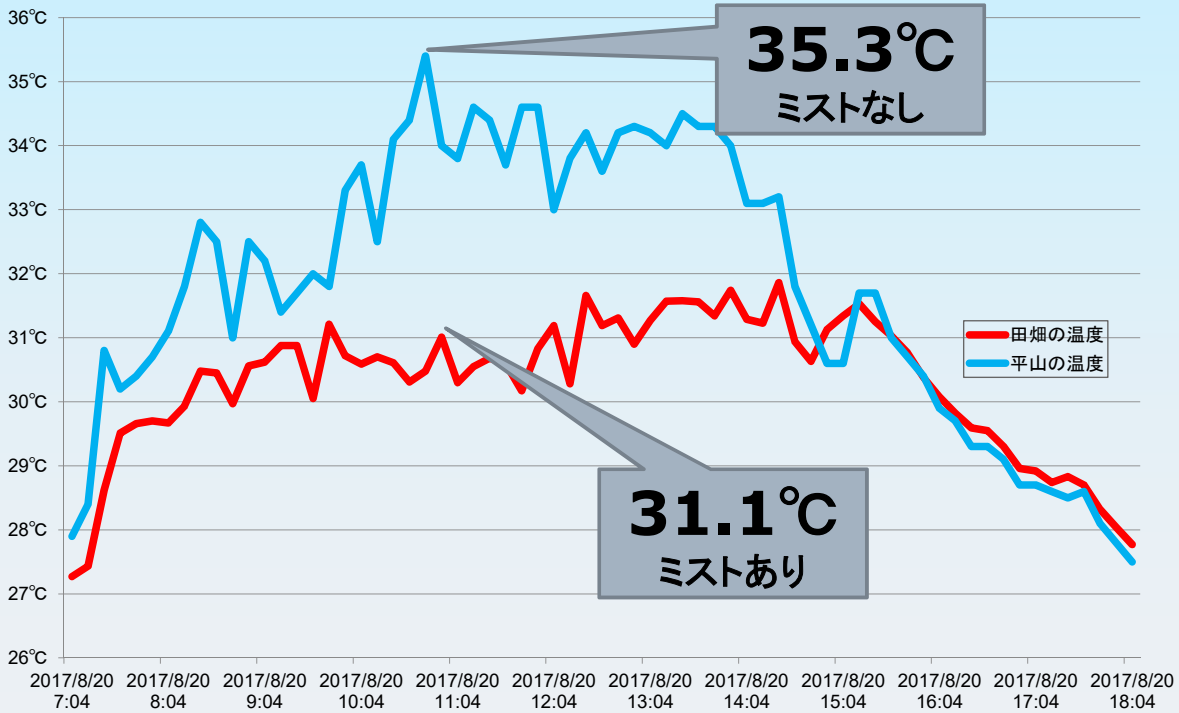
2017年8月20日ハウス内温度



労働安全重視⇒ミスト導入



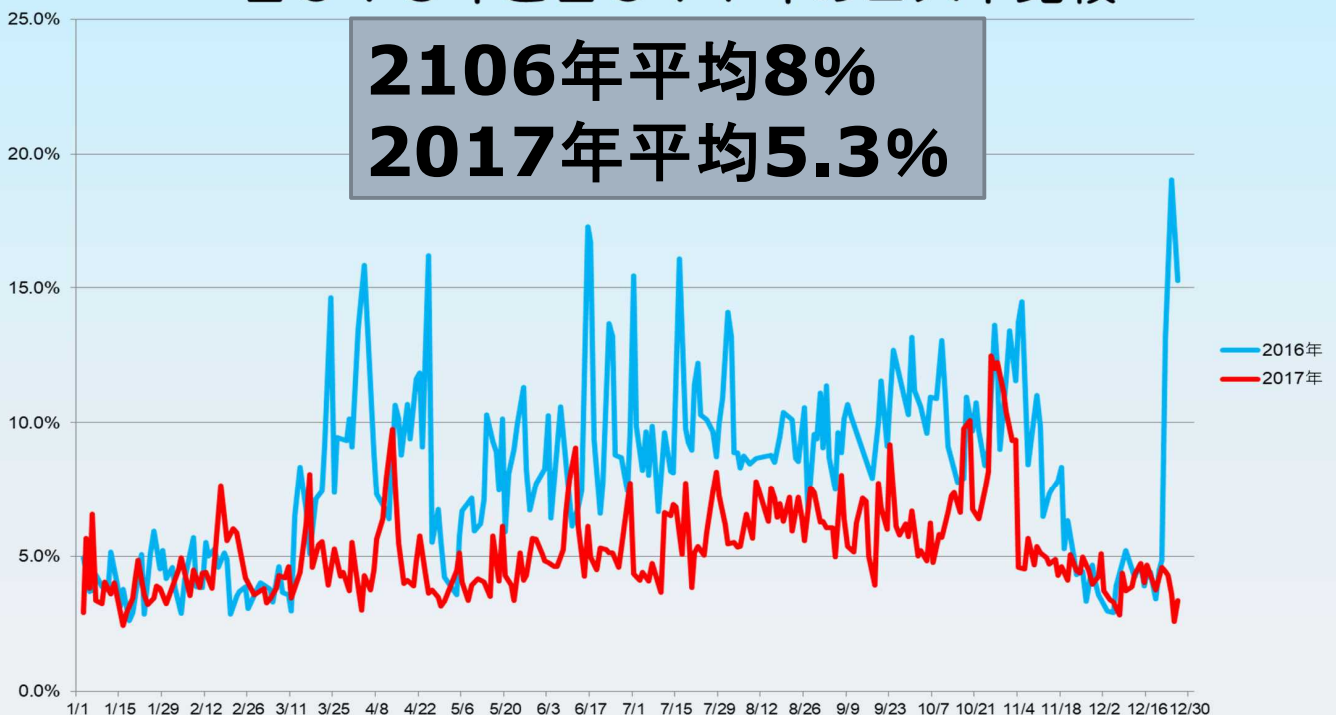
2017年8月20日ハウス内温度比較



労働安全⇒ミスト導入⇒ロス率削減



2016年と2017年のロス率比較



ミスト導入効果



□ 労働環境の改善⇒労働安全

猛暑時35°Cの室内温度が31°Cに。

働く人たちの声

◎ミストが出ると一瞬暑さが和らぐ。随分涼しくなりました。

良くなった10名 変わらない1名 良くない1名

□ 収益性向上⇒ロス率軽減

ロス率8%が5.3%に減少

※ロス率とは、規格外商品数(ゴミ)÷生産本数×100=ロス%

@15円×15万本=225万円売上増

ミスト装置800万円は、7年償却=114万円/年

ミスト導入効果225万円-114万円=**111万円**

ユニバーサル農園とは 農業+福祉=新産業創出



○基本的な考え方(事業理念)

「働く個人ごとに役割を持って、人との繋がりの中で、幸せを感じられる仕事づくりを目指します」

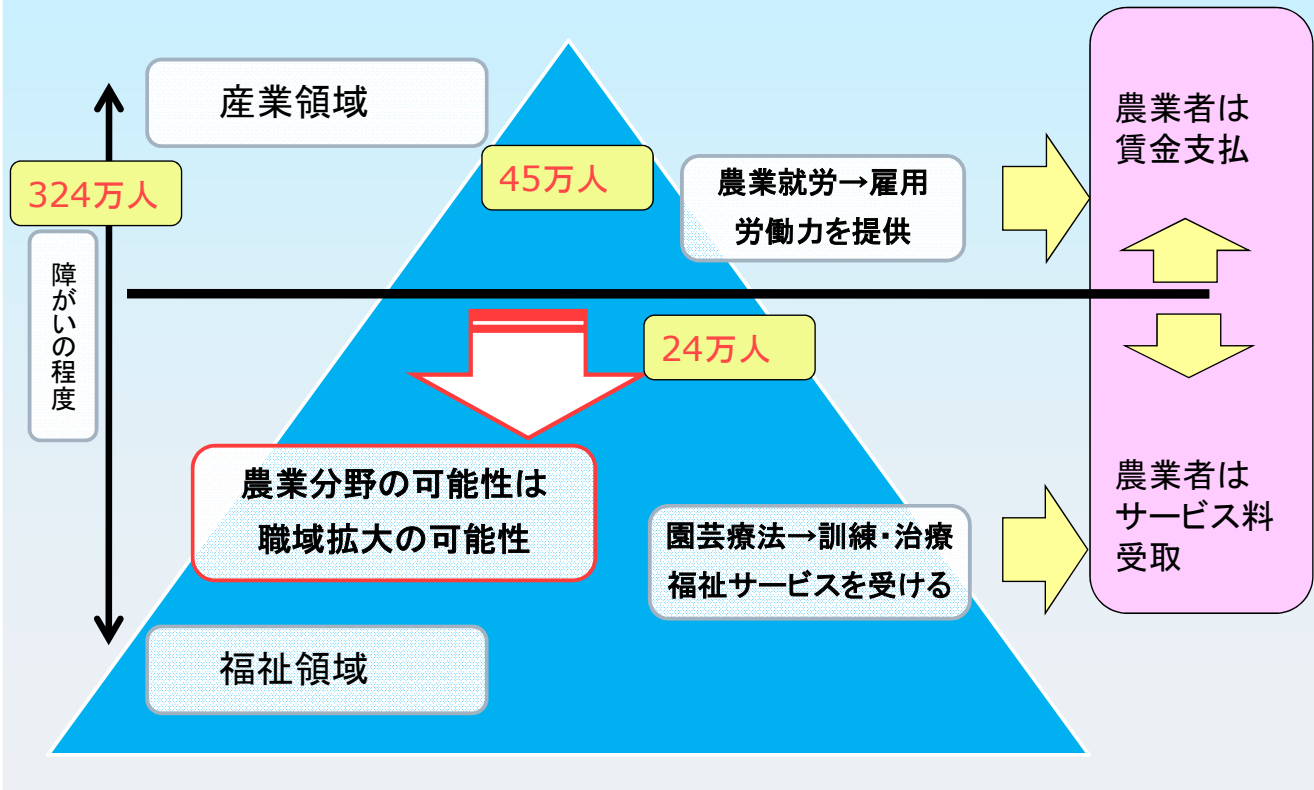
企業活動はすべて、人の幸せのためにあります。

正直に働き、品質の良い農産物を作り、お客様から仕事の評価を頂けること、そして結果として、利益とやりがいを生み出せることが、真の社会参加となります。

京丸園での働きが、関わる人々すべての人達の「喜びと安心と誇り」となれるような運営努力をしていきます。

私たちの目指すユニバーサル農園とは、福祉のための農園ではなく、「農業経営における幸せの追求」です。

JGAPの普及は 多様な人達が働き手となる

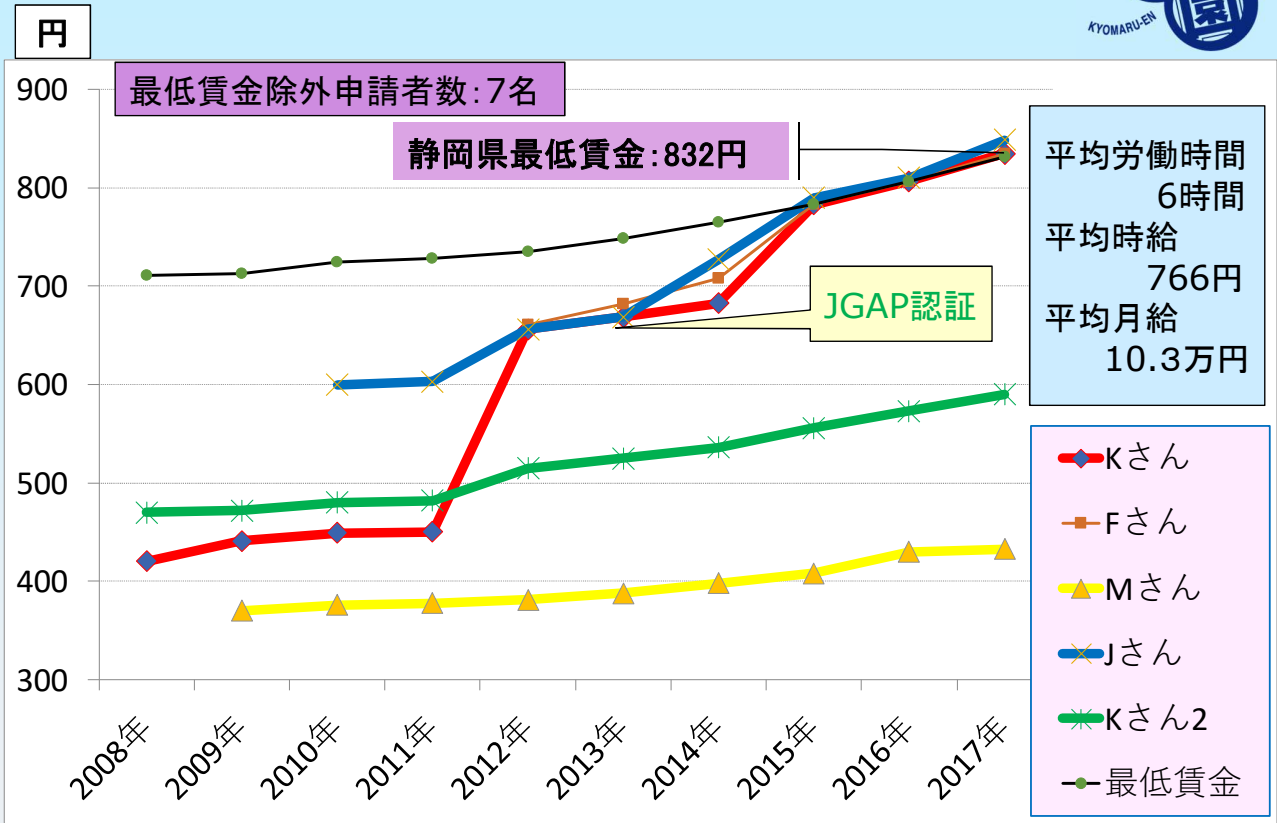


京丸ナビゲーションマップ



	作業	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6
1	掃除・草取り	汚れ判断・一人作業	一定作業量可	虫トレーラー可			
2	トレー・コンテナ洗い	汚れ判断・一人作業	洗浄機使用可	質・量			
3	段ボール組み立て		作業手順	正確・量			
4	ちんげん菜定植		立作業	正確・量	苗の品質区別		
5	ちんげん菜収穫			刃物使用	正確・箱詰め	品質変化対応	目標収穫量
6	姫みつば下葉とり				正確作業	品質変化対応	目標量対応

JGAP導入により賃金上昇



農業と福祉と企業の連携事業



農業の課題

- 農業の担い手不足
- 農産物価格の低迷

福祉の課題

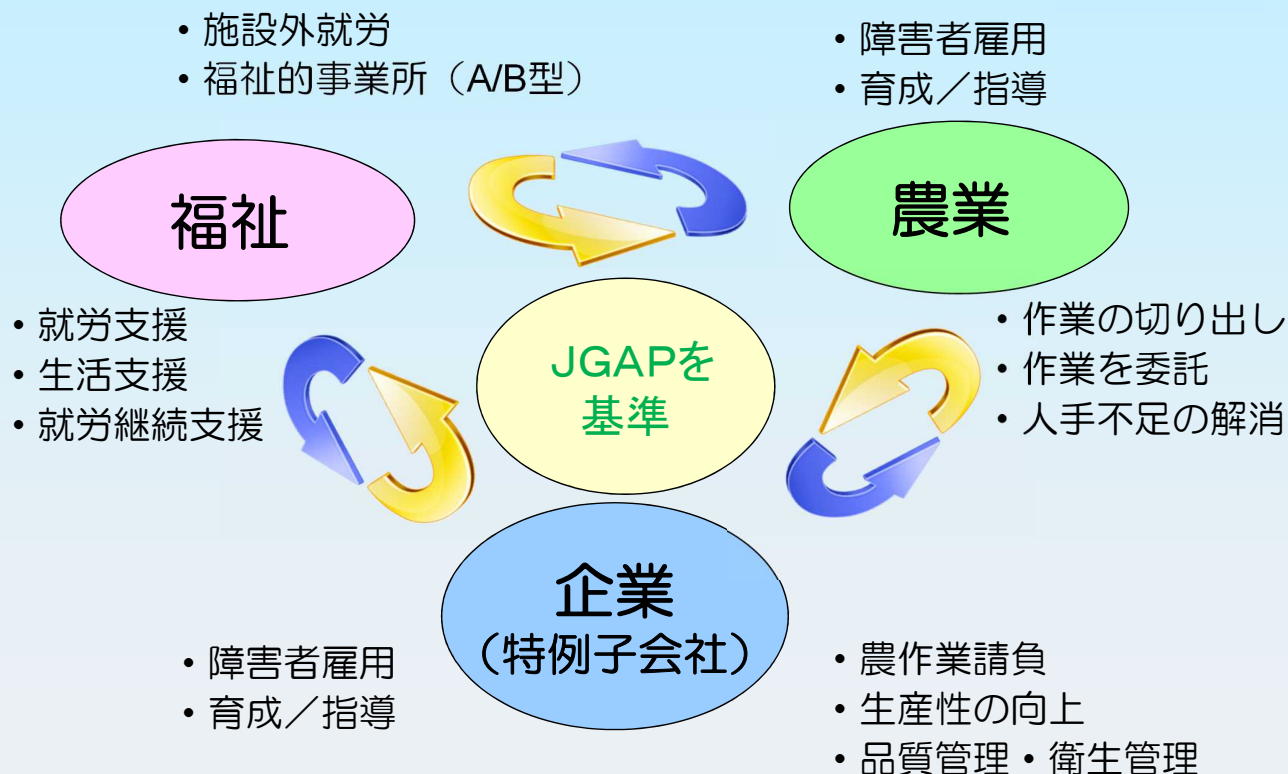
- 障がい者雇用企業の伸び悩み
- 農業分野での働き希望

企業の課題

- 障がい者法定雇用率達成
- 地域貢献、新規分野の開拓

社会的企業ビジネスモデル

農業と福祉と企業の連携モデル



JGAP=ユニバーサル農業

障がい者雇用をきっかけに見えてきた農業活性化



農業を活性化するには
誰もが参画できる農業を実現させる！

農業に多様な人達が集まると
そこには多くの智慧が集まり活力となる

農業をユニバーサルデザインする

JGAP導入

新たなビジネスの創造

<GAP 普及大賞 2018>
京丸園株式会社が受賞！
「GAP を活用して障害者・高齢者と共に成長する
イノベーションの取組」が評価されました。

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事専務：松井俊一）は、GAP 普及大賞 2018 の選考委員会を開催し、3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■GAP 普及大賞受賞事例：京丸園株式会社

京丸園株式会社は、農福連携に取り組むことで、障害者と共に成長し新たな価値を生み出すイノベーションを推進しています。この取組に JGAP を活用することで、作業工程の明確化と標準化を達成し全体が働きやすい職場を実現していることから、農福連携の分野における GAP 普及の好事例として高く評価されました。

京丸園株式会社は、作業工程を細分して、その工程の手順を明確化、標準化することで、障害者が正確で効率的な作業環境を牽引できることに気付き、農業生産の品質や生産性の向上につなげています。同社は、この作業工程の標準化に、平成 25 年から JGAP を活用しています。

水耕栽培でミツバ、チンゲン菜、芽ネギを生産しており、89 名の社員のうち 24 名が障害者です。また、民間企業とも外部委託契約を結び多くの障害者を受け入れています。これも GAP により作業を標準化していることで可能になっています。また、同社は障害者だけでなく高齢者も採用しており、年齢・性別を問わず多様性のある組織構成として労働力不足を乗り越え、組織としての持続性を目指しています。このように組織の持続性と農福連携の推進に GAP を活用する京丸園株式会社の取組は、今後の農業経営のあり方にも示唆を与えてくれるものであり、GAP 普及大賞にふさわしいものと高く評価されました。

GAP 普及大賞は、一般財団法人日本 GAP 協会が主催する、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。GAP 普及大賞 2018 の選考委員は次の通りです。

岩元明久（日本農業普及学会 副会長）、小池 甲（新潟県三条地域振興局農業振興部企画振興課 主査普及指導員）、田口光弘（農研機構中央農業研究センター農業経営研究領域 主任研究員）

この京丸園の取組に加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも甲乙付け難い GAP 普及の優良事例です。

- GAP 普及大賞— <受賞者> 豊田肥料株式会社
—同 特別賞— <受賞者> 福島県・福島県農業協同組合中央会

以上の 3 受賞事例について、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場下さい。

■シンポジウム「GAP Japan 2018」

- ・日時：2018 年 10 月 3 日（水） 13 時から 17 時 30 分
- ・場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）
- ・関連ホームページ：<https://2018.jgap.asia/> ※参加申込を受付中です
- ・問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp